

公益財団法人第五福竜丸平和協会

令和2年(2020年)度事業計画

第五福竜丸展示館は、開館から44年、船歴は73年となる。また、第五福竜丸エンジンが、展示館前広場に設置されてから20年目を迎える。

本年はビキニ水爆実験から66年目にあたるが、核兵器をめぐる国際的状況に関して注目すべき年となると思われる。それは、核兵器禁止条約発効へのうごき、一方で核保有国による新たな核開発・軍拡の懸念などである。

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、こうした状況に留意しつつ、定款にうたう貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える事業、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いで保存展示が実現したことを踏まえた事業を広く都民・市民にむけてすすめる。

本年度は、オリンピック・パラリンピック開催にともない、夢の島公園がアーチェリー会場となるため、7月3日より9月7日まで公園全体が休園となる。この期間も通常業務は続けるが、都内はじめ各地での第五福竜丸・世界の核被害のパネル展、「西から昇った太陽」映画会などの開催、実施をよびかける。

第五福竜丸からの発信の事業に力をそそぎ、また平和遺産、産業遺産としての第五福竜丸の存在とその意義を広く伝える。学校見学促進への広報、来館者への対応、展示館の利用の拡大をはかる。

公益法人のかなめの事業としての展示館業務

・令和2年度は、展示館開館日250日、(平日197日、日祝日53日)となる。オリンピック・パラリンピック開催に伴う夢の島公園休園の7月3日~9月7日は、展示館も休館となる。ただし協会としての業務日数は、307日である。

・また春と秋の修学旅行・学校見学シーズンは通常どおり運営するものの、オリ・パラ開催準備・撤収との関連で、公園駐車場の大型バス利用は、2月~10月末までできなくなる。これへの対策、代替処置など近隣の江東区競技場、夢の島マリーナなどの駐車場利用の協力を得る。

・戦後75年、ビキニ事件66年という歳月は、「歴史の遠い過去」となり第五福竜丸や核被害を知らない世代が多数になることでもある。展示館の存在や利用に関する広報・宣伝活動にいっそう取り組む。これまで展示館を訪れたことがない学校をはじめ、DMやインターネットなどの活用をはかり情報発信する。

・カラー版「展示館しおり」(日英版)を広報宣伝に活用する。

・展示館、財団公益事業を支える賛助会員、ニュース会員をひろげるとりくみ、第五福竜丸を伝える取り組みとしての『第五福竜丸は航海中』など書籍、広報資材の活用を広げる。

企画展【展示替え】等の取り組み

都との契約にもとづく展示替え(企画展等の開催)をすすめる。本年度最初の春の企画展示は、協会が所蔵する久保山愛吉無線長へのお見舞い・激励の手紙から、特に子どもたちから寄せられた手紙を特別展示し、福竜丸被災の社会的反響や市民感情などを考察・紹介する。

福竜丸エンジンの展示館前ひろば設置実現20年を記念し、エンジンの歴史その経緯を紹介す

る特別展示をおこなう。いずれも5月初旬から6月末の開催とする。関連イベントとして、「子どものための音楽朗読劇 くじらのこえ なみのこえ」を上演する。

・秋の「展示替え」は、常設展示のマーシャル諸島の核被害から世界の核被害、原水爆のない世界へのあゆみのコーナーをリニューアルし展示する。

・9月23日の久保山忌句会と連動した俳句作品の展示をおこなう。

・3・1ビキニ記念のつどい、子ども向け企画、市民向けの企画等をおこなう。

第五福竜丸・ビキニ事件、世界の核被害を伝える取り組み

・昨年3月2日の3・1ビキニ記念の行事で上映された映画「西から昇った太陽」(キース・レイミンク監督作品)の各地での上映活動をよびかける。映画の上映とともにビキニ事件・第五福竜丸の被ばく、広島・長崎後の核開発などへの学習のサポートをすすめる。

・「第五福竜丸展示パネル」、豊崎博光氏寄贈の「世界の核被害」パネルの活用などをすすめる。各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師等の派遣、出前授業などをおこなう。

船体・エンジン等の保存のための検討作業

・船体等保存検討委員会を開き、第三回の3D測定の実施(7月ないし12月予定)と船体、エンジンの現況と今後についての検討作業をすすめる。とりわけ劣化がすすむエンジンの対策への検討を優先しすすめる。

資料収集・研究活動、出版事業ほか

・「福竜丸だより」は展示館と賛助者、市民と第五福竜丸・財団の諸事業をつなぐメディアであり、隔月の発行をすすめる。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。

・福竜丸だよりへの連載「晴れの日 雨の日」(顧問・山村茂雄氏執筆)が刊行されたことをうけ本書の普及をすすめる。

・フォト・ジャーナリスト島田興生氏の連載「語り継ぐビキニ～マーシャルの人びととの40年」の出版、および同氏の写真資料約100点余を所蔵資料として納める作業をおこなう(写真データと写真の解説)。

・マーシャル諸島の核被害、文化人類学的アーカイブ制作の事業(島田興生、中原聖乃専門委員、渡邊英徳東大教授)に協力し、マーシャル諸島へのスタディツアーに参加する。

・国際平和博物館会議(9月16-23日、京都、広島)に参加する。

・協会、新俳句人連盟、原爆忌東京俳句大会の共済でおこなわれてきた久保山忌句会が40周年を迎えることを記念し、優秀句(船員証)とビキニ事件当時の句作品などを収録したブックレットを発行する。

・「福竜丸だより」をアーカイブ化し広く活用するウェブサイト作製について作業をすすめる。

・展示館活動の充実をはかる一環として、ボランティアの会の活動をすすめる。

以上